

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第5回運営委員会議事次第

- 1 日時：平成31年3月26日(火)14時00分～15時00分（台湾時間）
- 2 場所：NCDR（台湾）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、清水（副会長、Skype出席）、佐波、飯野、見目（長瀬委員の代理）、中島、緒方、Li、遠藤
陪席者：平岡（セコム）、前田（大日本印刷）、Qiao（スリーエム ジャパン）、真城（DRI ジャパン）、竹下（産業技術総合研究所）、前山（防災科学技術研究所）、石濱（筑波大学）
その他：鈴木（筑波大学）、岡島（〃）、梅本（〃）、高安（〃）、衛（〃）、鈴木（〃）、佐久間（〃）、松原（〃）（敬称略）

4 議事

第5回運営委員会出席者名簿について（資料1）

【審議】

(1) 平成31年度コンソーシアム活動計画について（資料2,3）

(2) その他

【報告】

(1) 第6回幹事会（H31.2.12）について（資料4）

(2) 2019年度客員教員・非常勤講師について（回収資料1,2）

(3) インターンシッププログラム参画機関について（資料5）

(4) 筑波会議について（資料6,7）

(5) 共同研究について（資料8,9）

(6) リスク・レジリエンスセミナーについて（資料10）

(7) 台湾大学訪問について（資料11）

(8) 台北市ツアーについて

(9) セコム台湾ツアー

(10) その他

（今後の予定）写真撮影、リスク・レジリエンスセミナー、NCDR見学会、懇親会
（配付資料）

- 資料1 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第5回運営委員会出席者名簿P.1～
資料2 2019年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアム年間活動計画（案）P.3～
資料3 Joint Seminar 減災概要P.5～
資料4 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第6回幹事会議事要旨P.7～
資料5 インターンシッププログラム参画機関状況一覧P.9～
資料6 筑波会議概要P.11～
資料7 筑波会議企画提案書P.19～
資料8 防災減災連携研究ハブ第1回会合議事概要（案）P.25～
資料9 防災減災連携研究ハブ規約(案)P.31～
資料10 リスク・レジリエンスセミナーポスターP.33～
資料11 台湾大学打合せ出席者一覧P.35～
回収資料1 平成31年度リスク工学専攻客員教員一覧
回収資料2 平成31年度リスク工学専攻非常勤講師一覧

Resilience Research and Education Promotion Consortium
5th Steering Committee Order

1. Date/Time--- Tuesday, March 26, 2019 14:00 ~ 15:00
2. Venue -----NCDR (Taiwan)
3. Attendee-----Hayashi(President), Amari(Vice-president), Shimizu(" ,by skype),
Sanami, Iino, Kemmoku (understudy of Nagase), Nakajima,
Ogata, Li, Endo
Observer-----Hiraoka (Secom), Maeda (DNP), Qiao (3M Japan), Mashiro (DRI
Japan), Takeshita (AIST), Maeyama (NIED), Ishihama (University
of Tsukuba)
Others -----Suzuki (University of Tsukuba), Okajima ("), Umemoto ("),
Takayasu ("), Wei ("), Suzumura ("), Sakuma ("),
Matsubara (") (without honorific)
4. Agenda
Concerning the list of attendee of The 5th Steering Committee (handout 1)
【Deliberations】
(1) Concerning the Consortium's annual activity of 2019 (plan) (handout 2, 3)
(2) Others

【Reports】
(1) Concerning the 6th Board of Governors (handout 4)
(2) Concerning the Visiting Teachers and Lecturers (Non-Full-time) (collection
handout 1, 2)
(3) Concerning the institutions which would participate Internship Program (handout
5)
(4) Concerning the Tsukuba Conference (handout 6, 7)
(5) Concerning the Collaborative Research (handout 8, 9)
(6) Concerning the Risk and Resilience Seminar (handout 10)
(7) Concerning visiting National Taiwan University
(8) Concerning tour to Taipei City (handout 11)
(9) Concerning tour to Secom Taiwan
(10)Others

(future plans)

Photographing, Risk and Resilience Seminar, Tour to NCDR, Convivial Party

(handout)

Handout 1 List of attendee of the 5th Steering Committee of
Resilience Research and Education Promotion Consortium---- P.1~
Handout 2 Annual Activity of Resilience Research and Education Promotion
Consortium in 2019 (plan)----- P.3~
Handout 3 Joint Seminar, outline of disaster prevention----- P.5~
Handout 4 Summary of the 6th Board of Governors of Resilience Research
and Education Promotion Consortium----- P.7~
Handout 5 List of institutions which participate Internship Program----- P.9~
Handout 6 Outline of the Tsukuba Conference----- P.11~
Handout 7 Session Proposal of Tsukuba Conference----- P.19~
Handout 8 Outline of the 1st meeting proceeding of Disaster Prevention
Collaborative Research Hub ----- P.25~
Handout 9 Rules of Disaster Prevention Collaborative Research Hub ---- P.31~
Handout 10 Poster of Risk and Resilience Seminar ----- P.33~
Handout 11 List of attendee of National Taiwan University Meeting----- P.35~
Collection Handout 1 List of Visiting Teachers of Master's/Doctoral Program in
Risk Engineering in 2019
Collection Handout 2 List of Lecturers(Non-Full-time) of Master's/Doctoral
Program in Risk Engineering in 2019

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第5回運営委員会出席者名簿

(敬称略、網掛けは欠席)

出欠	機関	委員	委員代理	陪席者
出席	セコム	IS研究所 リスクマネジメント グループ グループリーダー 甘利 康文		I S 研究所 企画グループ 主務研究員 平岡 良彦
出席	大日本印刷	研究開発センター 課長 佐波 晶		研究開発センター 前田 賀隆
欠席	日本電気	セキュリティ研究所 主任研究員 柳生 智彦		
出席	スリーエム ジャパン	国土強靱化プロジェクト本部 統轄技術部長 飯野 誠司		常務執行役員 CTO Liu Qiao
出席	DRIジャパン	理事長 長瀬 貫隆	理事 見目 久美子	理事 真城 源学
欠席	電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英		
欠席	日本自動車研究所	代表理事 研究所長 永井 正夫		
出席	海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	航空交通管理領域 領域長 中島 徳顕		
出席	産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長 緒方 雄二		エネルギー・環境研究戦略部 研究企画室 企画主幹 竹下 潤一
出席	防災科学技術研究所	理事長 林 春男		企画部社会連携課 係員 前山 明輝
欠席	労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	災害調査分析センター センター長 池田 博康		
出席	NCDR (台湾)	Secretary General Wei-Sen Li		
出席		教育担当副学長 清水 諭		
出席	筑波大学	学位プログラムリーダー (システム情報系 教授 リスク工学専攻長) 遠藤 靖典		システム情報エリア支援室 支援室長 石濱 悟

関係出席者

筑波大学 システム情報系 鈴木 勉 教授、岡島 敬一 教授、梅本 通孝 准教授、高安 亮紀 助教
グローバル・コモンズ機構 衛 絢子 主任
システム情報エリア支援室 鈴木 朋美、佐久間 裕之

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム プロジェクトマネージャー・事務担当者
松原 悠

Mail: matsubara@risk.tsukuba.ac.jp Tel: 029-853-4975 Fax: 029-853-5717

〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学システム情報エリア支援室

年月	総会・運営委員会	幹事会
2019 年 4 月		第 1 回幹事会 4 月 22 日(月)11:00-12:00 筑波大学 つくばキャンパス総合研究棟 B1202
5 月		
6 月	総会 6 月 3 日(月)14:00-（見学会含む） 日本自動車研究所（つくば市）	
7 月		第 2 回幹事会 7 月 22 日(月)10:00- 防災科学技術研究所 東京会議室（虎ノ門）
8 月		
9 月		第 3 回幹事会 9 月 30 日(月)10:00- 防災科学技術研究所 東京会議室（虎ノ門）
10 月	筑波会議 10 月 3 日(木) つくば国際会議場（つくば市）	
Joint Seminar 減災との共同シンポジウム 10 月 25 日(金)14:00-16:50 関西大学 梅田キャンパス（大阪市） （第 4 回幹事会 11:00-12:00、第 1 回運営委員会 12:00-13:30）		
11 月		
12 月		
2020 年 1 月	第 2 回運営委員会（開催機関未定）	
2 月		第 5 回幹事会 2 月 17 日(月)10:00- 防災科学技術研究所 東京会議室（虎ノ門）
3 月	第 3 回運営委員会（開催機関未定）	

2018

2017

災害対応研究会
Archive

Joint Seminar 減災とは

本研究会は、災害対応研究会と関西大学社会安全研究センターとの共催によって平成29年度より発足しました。土木学会関西支部緊急対応分科会に端を発し23年の歴史がある災害対応研究会（代表：林 春男 京都大学防災研究所特任教授／国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）と、社会安全学の創設、その現実社会への適用、政策立案などを推進する関西大学社会安全センター（河田 恵昭 センター長・特別任命教授）が共催をすることで、わが国を代表する防災に関する研究会として更なる高みを目指していきます。

年4回の研究会のうち、7月、10月の開催は、会員(約300名)向けのクローズド形式で、1月の開催は、公開シンポジウムとして開催します。

Joint Seminar 減災 代表 河田 恵昭（関西大学社会安全研究センター センター長・特別任命教授）
林 春男（国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長）

年間スケジュール

2018年度

■年間テーマ■ 「レジリエントな組織・地域を目指す事業継続・業務継続・事前復興」

南海トラフ地震や首都直下地震、激甚化する気象災害、CBRNEなどの発生可能性が危惧されています。災害発生後、いかにレジリエントに事業・業務中断時間を短く早期復旧し、地域においては復興につなげていくかという、事業継続・業務継続・事前復興の考え方や実践について学んでいきます。

第1回	「企業の事業継続」	4月27日(金) 14:00～17:00
第2回	「地域の復興計画」	7月27日(金) 14:00～17:00
第3回	「ワールドをたずねて」	10月26日(金) 14:00～17:00
第4回	「神戸国際防災のつどい2019」	2019年 1月17日(木) 15:00～18:00

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第6回幹事会議事要旨

- 1 日時：平成31年2月12日(火)10時00分～11時30分
- 2 場所：防災科学技術研究所 東京会議室
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤
 陪席者：阿部（防災科学技術研究所）、中島（〃）、前山（〃）、平岡（セコム）、石濱（筑波大学）、松原（〃）
 （敬称略）

4 議事

(1) 平成31年度コンソーシアム活動計画について（資料1, 2、別添資料1）

遠藤委員より、資料1, 2、別添資料1に基づき、平成31年度の総会や運営委員会等の活動計画案について説明があり、検討の結果次のとおり承認された。

<総会>

2019年6月3日(月)14:00-15:00 日本自動車研究所（つくば市）

※終了後見学会を検討中

<運営委員会>

第1回：2019年10月25日(金)12:00-13:30 関西大学 梅田キャンパス（大阪市）

第2回：2020年1月

第3回：2020年3月

<幹事会>

第1回：2019年4月22日(月)11:00- 筑波大学 つくばキャンパス総合研究棟 B1202
 （つくば市）

第2回：2019年7月22日(月)10:00- 防災科学技術研究所 東京会議室（虎ノ門）

第3回：2019年9月30日(月)10:00- 防災科学技術研究所 東京会議室（虎ノ門）

第4回：2019年10月25日(金)11:00-12:00 関西大学 梅田キャンパス（大阪市）

第5回：2020年2月17日(月)10:00- 防災科学技術研究所 東京会議室（虎ノ門）

<筑波会議>

2019年10月2日(水)～3日(木)のうち1日間 つくば国際会議場（つくば市）

<Joint Seminar 減災との共同シンポジウム>

2019年10月25日(金)14:00-16:50 関西大学 梅田キャンパス（大阪市）

(2) 台湾出張の日程について（資料3～6）

遠藤委員より、資料3～6に基づき、台湾出張の日程、リスク・レジリエンスセミナーのポスター素材案、台湾大学訪問について説明があり、次の修正を経て承認された。

・資料5 リスク・レジリエンスセミナー ポスター素材案

- ✓ 林会長の講演題目：Improvement of Resilience for Disaster Risk Reduction
- ✓ 甘利副会長の講演題目：The Essence of Security
- ✓ 甘利副会長の所属：IS → Intelligent Systems

(3) 2019 年度客員教員・非常勤講師について（回収資料 1, 2）

遠藤委員より、回収資料 1, 2 に基づき、2019 年度客員教員・非常勤講師の氏名や担当科目等について報告があった。なお、今後の客員教員・非常勤講師の追加については、参画機関にて検討のうえ筑波大学に希望を出すこととなった。

(4) インターンシッププログラム参画機関について（資料 7）

遠藤委員より、資料 7 に基づき、インターンシッププログラム参画機関、種別、時期、協定締結実績について報告があった。

なお、「実施しない」、「未回答」の機関には、インターンシップの趣旨を誤解の無いよう説明すべきとの意見があり、対応することとなった。

(5) その他

松原 PM より、近日中に、授業担当者にシラバス作成または確認の依頼をする旨の説明があった。

以 上

機関	参画／ 不参画	種別 短期：2週～1か月 中期：1～2か月 長期：2～3か月	時期	協定締結実績	備考
セコム	参画	中期・長期	応相談	なし。学生の参加申請ごとに協定内容を協議。	
大日本印刷	参画	短期・中期（応相談）	応相談	C-ENGINE の枠組みを利用し実施。	
日本電気	不参画				
スリーエム ジャパン	不参画				
DRI インターナショナル	参画	中期・長期	2019.5 ～2020.3	なし。検討中	ニューヨークにて実施
電力中央研究所	参画	短期	2019.7 ～2019.8	筑波大学と締結実績あり。	横須賀地区エネルギーイノベーション創発センターにて実施
日本自動車研究所	参画	短期	2019.7 ～2019.9	なし。コンソ申合せひな形を一部修正し採用。	
電子航法研究所	参画	短期・中期・長期	応相談	あり。	原則 1 名
産業技術総合研究所	参画	応相談	応相談	筑波大学と締結実績あり。「技術研修規定」を適用。	
防災科学技術研究所	参画	短期	2019.10 ～2020.3	あり。	
労働安全衛生総合研究所	参画	長期	協定締結後 すぐ	あり。「教育研究連携に関する協定書」を適用。	
NCDR	参画	短期・中期・長期	応相談	あり。取り寄せ中	

筑波会議について

1. 筑波会議の開催について

(1) 筑波会議の開催

我が国における学術研究と開発研究、産業と経済を代表する立場にある者で構成する筑波会議委員会は、世界の若手研究者等が筑波研究学園都市に参集し「社会と科学技術」に関する様々な課題について討議する国際会議を開催することで意見が一致し、2019年に筑波会議を開催することを決定した。

(2017年7月5日(水)第1回筑波会議委員会)

(2) 筑波会議を開催する意義

近年の情報通信技術、生命科学、物質材料科学、脳・認知科学などの急激な発展は第四次産業革命を招来し、商品・サービスの内容や提供・消費の在り方、産業構造のみならず人々の働き方までも大きく変えるものと考えられている。

これからの科学と技術の発展を担い、科学研究と技術開発に従事する分野、所属、国籍を問わないすべての若手研究者等に対して、自らの研究や開発と社会との関わりを考え、そのことを通じて社会的な意識や態度を涵養する機会を提供することも求められている。

若手研究者等による国際会議一分野、所属、国籍を異にする多数の若手研究者等が参集し「社会と科学技術」に関する様々な課題を討議する場を設けて、それらの課題について若手研究者等が理解を深め、認識を共有し、若手研究者等が自らの行動目標や提案などを社会に対してアピールする機会を提供することが科学技術先進国である我が国の責務と考えられている。

(3) 筑波研究学園都市で開催する意義

筑波研究学園都市が建設されてから50年の間、大学、国の研究機関、企業研究所は、多くの優れた研究成果を産み出すとともに、それら成果の技術移転や社会実装に寄与してきた。

しかしながら、筑波研究学園都市として科学技術が直面する課題や社会的な課題の克服に対する貢献は必ずしも十分でなく、今後、個々の大学・研究機関等における研究活動とともに筑波研究学園都市として「社会と科学技術」に関する様々な課題に取り組むことを通じて人類と社会に貢献することが期待されている。

このような歴史と特性を持つ筑波研究学園都市こそが、研究分野や研究の目的・タイプを異にする多数の若手研究者等が参集し「社会と科学技術」に関する様々な課題を討議する国際会議を開催する場として最も相応しいものと考えられる。

(4) 筑波会議に参加を呼びかける対象者

活動分野、専門分野、文化的背景、国籍、所属を問わない以下の若者

- A 世界各国の大学、政府系研究機関、企業などで科学研究や技術開発などに従事する若手研究者、大学院博士課程に在籍する学生、PD 等
- B 世界各国で科学技術に関する専門知識を持って新たな産業経済活動を創出している若手起業家
- C 世界各国、とりわけ発展途上国において、科学技術に関する専門知識を持って感染症、環境問題などの社会問題を克服するための活動を行っている若者

2. 第1回筑波会議について

(1) 日程

日時: 2019 年 10 月 2 日(水)～4 日(金)

場所: つくば国際会議場(茨城県つくば市竹園2-20-3)

(2) 会議の構成

1) メインテーマ

Society 5.0 と SDGs を見据えた目指すべき社会の在り方とその実現に向けて取り組むべき課題

2) メインセッション

メインテーマを基調としながら、次の5つのカテゴリー毎に一つのメインセッションを実施する。

- ① Society 5.0 と SDGs を見据えた先端科学技術分野の研究と直面する社会的課題の解決に向けた取組み
- ② Society 5.0 と SDGs を見据えた長命時代の健康、医療、社会システム
- ③ Society 5.0 における労働の在り方、労働の意義
- ④ Society 5.0 が真に多様性が許容される共生できる社会となるために
- ⑤ Society 5.0 と SDGs を見据えた発展途上国が真に「豊かな社会」となるために—感染症等の克服

5つのメインセッションを、午前(9:00～12:00)に実施するものと午後(14:

00～17:00)に実施するものに振り分ける。

各セッションの時間は1.5～2時間とし、1.5時間の場合の構成例は、発表30分、壇上のディスカッション30分(モデレーターと発表者、あるいはパネルディスカッション)、フロアとのディスカッション30分。

3)サブセッション

メインセッション以外に、筑波会議企画委員会を構成する機関及び関係機関が協力し、企画・主催するサブセッションを20～30程度設ける。

サブセッションについては、筑波会議のメインテーマに沿う限りにおいて、具体的なセッションテーマや登壇者の選定・招聘を当該企画・主催団体に委ねるものとする。

4)スペシャルセッション

広く一般に公開するスペシャルセッションとして、協賛団体等のスポンサーセッション、音楽イベント、学生企画等の実施を検討している。これと並行して、企業、ベンチャーや研究機関等の展示ブースを有料で設けることも想定している。

5)ネットワーキングセッション

筑波会議参加者間の分野や属性を越えた交流とネットワーク構築を目的として、ネットワーキングセッションを各日に実施する。

この時間帯にコミュニティ(学長・副学長、若手企業人、若手起業家、若手官僚、若手研究者、若手芸術家など)ごとのネットワーキングセッションも必要に応じて企画する。

(3)招聘者等

1)基調講演者等

- ①基調講演者クラス 10名程度
- ②モデレーター 40名程度

2)若手研究者等

- ①海外 150名程度
- ②国内 350名程度

3)一般参加者 1,000名程度

筑波会議委員会委員等名簿

(平成 30 年 12 月 1 日現在)

委員

秋池 玲子	ボストンコンサルティンググループ Senior Partner & Managing Director Tokyo
内山田 竹志	トヨタ自動車会長
岸 輝雄	新構造材料技術研究組合理事長、外務省参与（外務大臣科学技術顧問）
黒川 清	内閣官房健康・医療戦略参与
小林 喜光	経済同友会代表幹事、三菱ケミカルホールディングス会長
五神 真	東京大学総長
山海 嘉之	サイバーダイネ CEO
中鉢 良治	産業技術総合研究所理事長
中西 宏明	日本経済団体連合会会長、日立製作所会長
永田 恭介	筑波大学長
藤崎 一郎	日米協会会長、前アメリカ合衆国駐箚特命全権大使
松本 紘	理化学研究所理事長
三村 明夫	日本商工会議所会頭

顧問

江崎 玲於奈	茨城県科学技術振興財団理事長
尾身 幸次	S T S フォーラム理事長・創設者

オブザーバー

赤石 浩一	内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）
飯田 祐二	経済産業省産業技術環境局長
宇都宮 啓	厚生労働省健康局長
五道 仁実	国土交通省大臣官房技術審議官
松尾 泰樹	文部科学省科学技術・学術政策局長

(敬称略、五十音順)

筑波会議企画委員会委員名簿

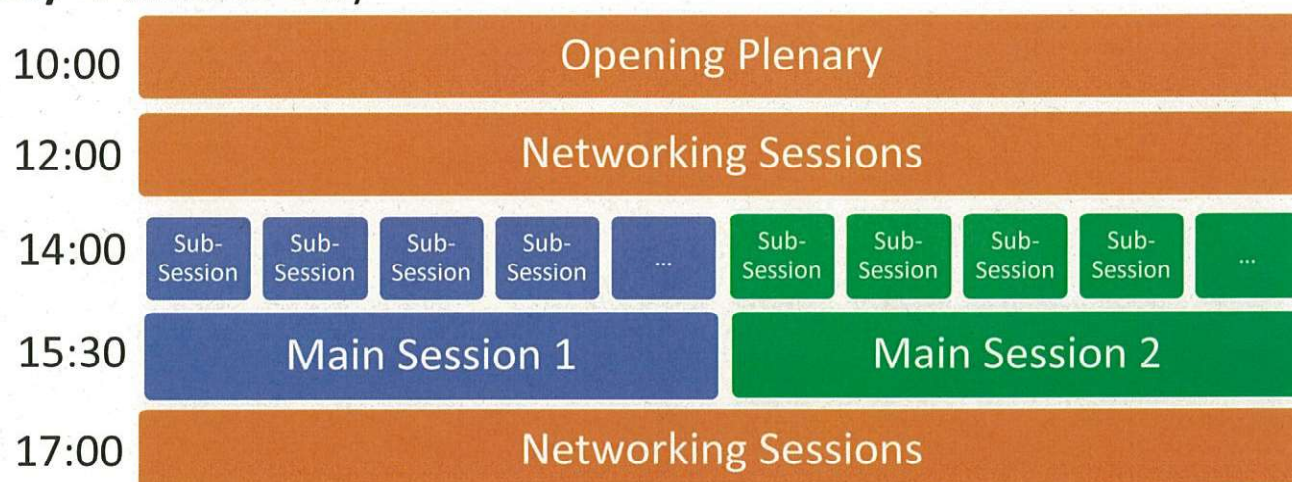
(平成 30 年 12 月 1 日現在)

安達	孝一	尚	国際協力機構社会基盤・平和構築部部長
有馬	田	潤	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
池田	口	豪	筑波大学大学執行役員
井口	井	利	厚生労働省健康局結核感染症課課長補佐
石井	井	芳	高エネルギー加速器研究機構理事
石井	井	芳	内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付 参事官（イノベーション創出環境担当）付 企画官（オープンイノベーション担当）
伊藤	正	秀	国土技術政策総合研究所研究総務官
乾	正	人	産経新聞東京本社論説委員長
今井	良	一	宇宙航空研究開発機構理事
上田	光	幸	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官（国際担当）
折戸	文	夫	農業・食品産業技術総合研究機構理事
風尾	幸	彦	STS フォーラム事務総長
金山	敏	彦	産業技術総合研究所特別顧問
毛塚	幹	人	つくば市副市長
小原		聡	日本産学フォーラム事務局長
小林		治	科学技術振興機構国際部長
小齊	藤	裕	ファナック副社長執行役員
澤地	孝	男	建築研究所理事
穴戸		博	理化学研究所筑波事業所長
篠塚		肇	経済同友会政策調査部部長 兼 総務部部長
高原		勇	トヨタ自動車 BR-未来社会工学室 室長
高手	塚	寛	国土交通省大臣官房技術調査課環境安全・地理空間情報技術調整官
徳永		保	筑波大学特命教授
土橋		久	防災科学技術研究所理事
西村		睦	物質・材料研究機構経営企画部門長
長谷川	秀	樹	国立感染症研究所感染病理部部長
原澤	英	夫	国立環境研究所理事
丸川	裕	之	日本プロジェクト産業協議会専務理事
盛谷	幸	一郎	茨城県政策企画部長
山口	嘉	一	土木研究所理事
山崎	知	巳	経済産業省産業技術環境局大学連携推進室長
吉見		剛	首都圏新都市鉄道常務取締役
吉村		隆	日本経済団体連合会産業技術本部長

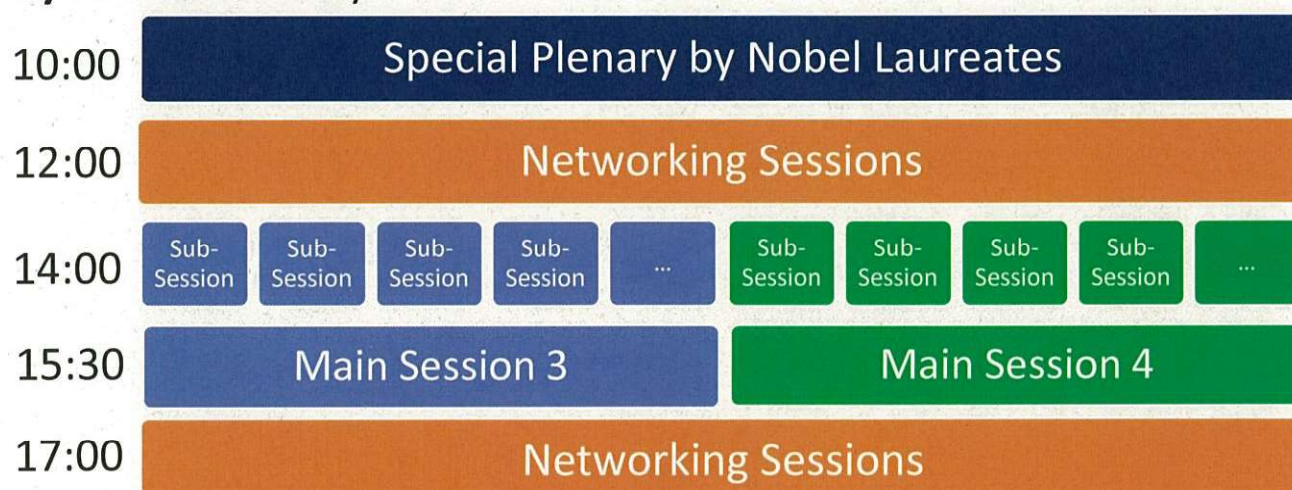
(敬称略、五十音順)

セッションの開催イメージ

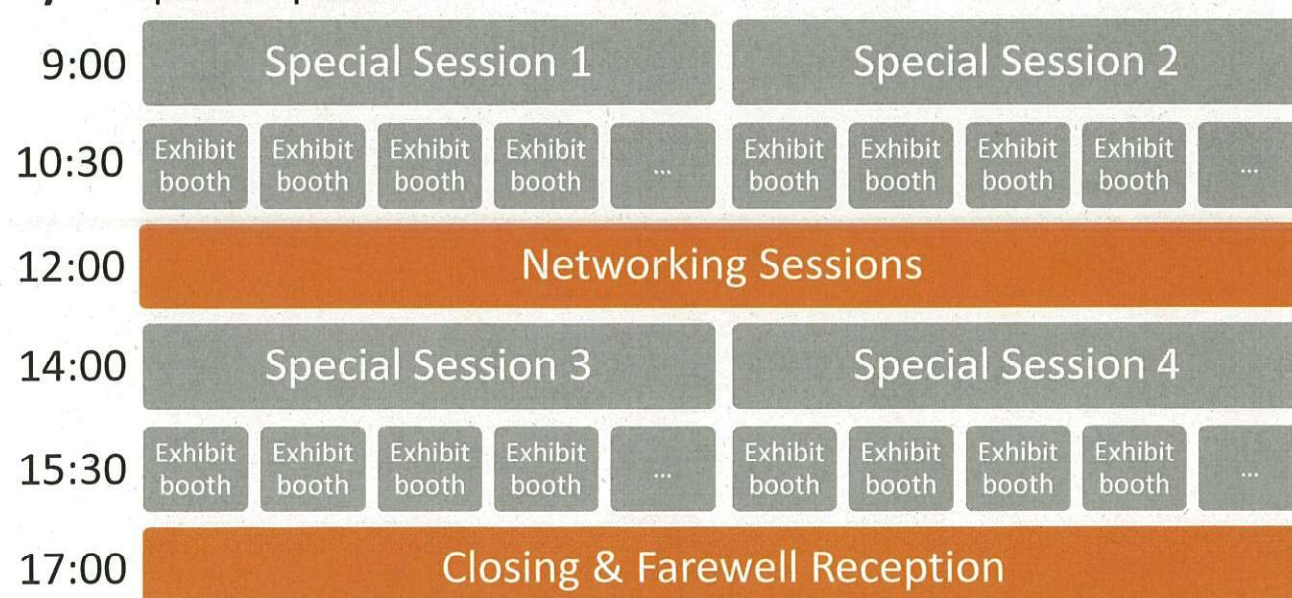
Day 1: Invitees only



Day 2: Invitees only



Day 3: Open to public



筑波会議 2019

ご協賛をお願いします！



つくば国際会議場



永田恭介（筑波会議委員会 委員長）

筑波会議とは

筑波会議委員会（裏面）が主催し、世界の産官学の若手がSociety 5.0とSDGsについて意見を交わす若手版「ダボス会議」です。

日時と場所

2019年10月2-4日につくば国際会議場で開催

参加者

- ▶ 10/2-3：世界から選ばれた産官学の若手（約500名）とトップリーダー（約100名）
- ▶ 10/4：市民を含む1500人の来場者

ご協賛のメリット

- ▶ 世界の産官学のトップリーダーと次代を担う若手に御社の名前やプロダクトを知ってもらい、つながることができます。
- ▶ 一般来場者やメディアに対しても御社名をアピールすることができます。

ご協賛の種別

協賛プラン	S	G	P
協賛金額（万円）	10	30	100
招待枠（10/2-3）	0	0	1
ブース出展（10/2-3）	-	-	○
ブース出展（10/4）	-	○	○
ポスター掲示（10/2-3）	-	○	○
ポスター掲示（10/4）	○	○	○
ロゴ掲載（会場内）	○	○	○
ロゴ掲載（ウェブサイト）	○	○	○
プログラム広告（10/4）	1/8頁	1/2頁	1頁

お問合せ先

筑波会議委員会事務局（担当：飯田）
029-853-4207
info@tsukuba-conference.com

筑波会議委員会名簿

委員

- ▶ 秋池玲子：ボストンコンサルティンググループ
- ▶ 内山田竹志：トヨタ自動車会長
- ▶ 岸輝雄：新構造材料技術研究組合理事長、外務省参与（外務大臣科学技術顧問）
- ▶ 黒川清：内閣官房健康・医療戦略参与
- ▶ 小林喜光：経済同友会代表幹事、三菱ケミカルホールディングス会長
- ▶ 五神真：東京大学総長
- ▶ 山海嘉之：サイバーダインCEO
- ▶ 中鉢良治：産業技術総合研究所理事長
- ▶ 中西宏明：日本経済団体連合会会長、日立製作所会長
- ▶ 永田恭介：筑波大学長（委員長）
- ▶ 藤崎一郎：日米協会会長、前アメリカ合衆国駐劬特命全権大使
- ▶ 松本紘：理化学研究所理事長
- ▶ 三村明夫：日本商工会議所会頭

顧問

- ▶ 江崎玲於奈：茨城県科学技術振興財団理事長
- ▶ 尾身幸次：STSフォーラム理事長・創設者

オブザーバー

- ▶ 赤石浩一：内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）
- ▶ 飯田祐二：経済産業省産業技術環境局長
- ▶ 宇都宮啓：厚生労働省健康局長
- ▶ 五道仁実：国土交通省大臣官房技術審議官
- ▶ 松尾泰樹：文部科学省科学技術・学術政策局長

筑波会議企画委員会参加組織

- ▶ 筑波大学
- ▶ 東京大学
- ▶ 高エネルギー加速器研究機構
- ▶ 物質・材料研究機構
- ▶ 防災科学技術研究所
- ▶ 理化学研究所
- ▶ 宇宙航空研究開発機構
- ▶ 国立感染症研究所
- ▶ 農業・食品産業技術総合研究機構
- ▶ 産業技術総合研究所
- ▶ 国土技術政策総合研究所
- ▶ 土木研究所
- ▶ 建築研究所
- ▶ 国立環境研究所
- ▶ 国際協力機構
- ▶ 日本経済団体連合会
- ▶ 経済同友会
- ▶ 日本プロジェクト産業協議会
- ▶ STSフォーラム
- ▶ 日本産学フォーラム
- ▶ 茨城県科学技術振興財団
- ▶ トヨタ自動車
- ▶ 日立製作所
- ▶ CYBERDYNE
- ▶ ファナック
- ▶ 首都圏新都市鉄道
- ▶ 産業経済新聞社
- ▶ 内閣府
- ▶ 文部科学省
- ▶ 厚生労働省
- ▶ 経済産業省
- ▶ 国土交通省
- ▶ 茨城県
- ▶ つくば市

筑波会議2019 セッション企画提案書

I セッション区分

サブセッション

II セッションオーガナイザー情報 Information of Session Organizer

(II-1)セッションオーガナイザー Session Organizer

- ・学外の研究機関と共同でセッションを実施する場合であっても、セッションオーガナイザーは筑波大学に籍を置く教職員または学生に限ります。なお、ここでいう「筑波大学に籍を置く教員」には、連携大学院の教員を含むこととします。
- ・採択結果は、セッションオーガナイザーに通知します。
- ・複数のオーガナイザーがいる場合、代表者1名について(II-1)欄に記入してください。
- ・学生がセッションオーガナイザーである場合は、必ず本学の教職員を共同オーガナイザーとし、(II-2)欄に記入してください。
- ・所属組織に略称がある場合でも、正式名称で記入してください。

名前	日本語	姓	臼田	名	裕一郎
	English	Last name	Usuda	First name	Yuichiro
所属	日本語	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 総合防災情報センター ※2019年4月1日～ 筑波大学 システム情報系 客員教授			
	English	Center for Comprehensive Management of Disaster Information, National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience ※2019.4.1～ Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba			
職名	日本語	選択してください	その他(記入)	センター長 ※2019年4月1日～ 客員教授	
	English	選択してください	その他(記入)	Director-General ※2019.4.1～ Visiting Professor	
連絡先	E-mail	usuyu@bosai.go.jp			
	電話番号(学内)	029-863-7553(学外)			

(II-2)共同オーガナイザー(いる場合のみ) Joint-Organizer

- ・複数のオーガナイザーがいる場合、代表者以外のオーガナイザーに関する情報は、共同オーガナイザーとして、(II-2)欄に記入してください。共同オーガナイザーが2人以上いる場合は、枠を追加してください。
- ・所属組織に略称がある場合でも、正式名称で記入してください。

名前	日本語	姓	松原	名	悠
	English	Last name	Matsubara	First name	Yu
所属	日本語	筑波大学 システム情報エリア支援室			
	English	Academic Service Office for the Systems and Information Engineering Area, University of Tsukuba			
職名	日本語	選択してください	その他(記入)	プロジェクトマネージャー	
	English	選択してください	その他(記入)	Project Manager	
連絡先	E-mail	matsubara@risk.tsukuba.ac.jp			
	電話番号(学内)	029-853-4975			

Ⅲ セッション情報 Information of Session

(Ⅲ-1) セッション概要 Concept of Session

・採択決定後に筑波会議ウェブサイトにもそのまま掲載しますので、ご注意ください。

セッション名	日本語	レジリエンス社会の実現に向けた防災・ヒューマンファクター・サイバーレジリエンス
	English	Disaster Resilience, Human Factors, Cyber Resilience toward Realization of Resilience Society
キーワード (英語で5つまで)	Risk, Resilience, Disaster, Human Factors, Cyber	
セッション概要 (日本語・英語併記)	日本語	近年の社会情勢の不安定化により、従来のリスクマネジメントの考え方・方法論では対応できない不測の事態が数多く発生し、リスクマネジメントを超える新たな概念が希求されるようになってきている。そのような状況を背景として、「不測の事態や状況の変化に柔軟に対応し、求められる機能を維持提供し続け、回復する能力」であるレジリエンスが、リスクに代わる新たな概念として注目されている。 これらに対応するため、2017年12月26日、企業、研究機関、大学の協働により、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムが発足した。本サブセッションでは、同コンソーシアム参画機関である筑波大学、防災科学技術研究所、セコム株式会社、国家災害防救科技中心(台湾)の協働により、レジリエンス社会の実現に向けた防災およびサイバーレジリエンスの取組・在り方について多角的に検討する。
	English (30-100 words)	Because of instability of social situations recently, contingencies we can't handle with conventional way of thinking and methods of risk management occur often. In this circumstance, new concept, resilience, is aspired. In this sub-session, University of Tsukuba, National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience, SECOM Co., LTD., and National Science and Technology Center for Disaster Reduction (Taiwan), which participate in Resilience Research and Education Promotion Consortium, will work together to develop disaster resilience, human factors, cyber resilience for the realization of resilience society.

(Ⅲ-2) セッション構成 Composition of Session

・セッションの進行と時間配分がわかるように記入してください。

セッション構成 (日本語)	※英語で実施する。 趣旨説明 10分間 モデレーター 臼田 裕一郎(セッションオーガナイザーに同じ) ショートプレゼン 30分間(スピーカー1人あたり10分間×3人) (1)「Mass Movement Warning System in Taiwan Using Soil Water Index」 (Chi-Wen Chen氏、国家災害防救科技中心 Assistant Researcher) ※2019年4月1日～ 防災科学技術研究所 研究員 (2)「Human Factors Solutions For Improving Human Interaction With Automation」 Husam Muslim氏(筑波大学システム情報工学研究科リスク工学専攻 大学院生) (3)「Cybersecurity toward Resilient Social Infrastructure (仮)」 島岡 政基氏(セコム株式会社 IS研究所 コミュニケーションプラットフォームディビジョン サイバーセキュリティグループ 主任研究員) ※2019年4月1日～ 筑波大学 システム情報系 客員准教授 ディスカッション 10分間(モデレーターとスピーカーによる) フロアーとのQ&A 30分間 総括 10分間 (モデレーターによる)
------------------	---

セッション構成 (English)	* The session is conducted in English. Explain about aim for 10 minutes. Moderator is Yuichiro Usuda. (same as Session Organizer) Short presentation is for 30 minutes (for 10 minutes by one speaker *3). (1) 「(to be determined)」 (<to be determined about speakers>, staff of NCDR) (2) 「Human Factors Solutions For Improving Human Interaction With Automation」 Mr. Husam Muslim (Postgraduate Student of Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba) (3) 「Cybersecurity toward Resilient Social Infrastructure (draft)」 Mr. Masaki Shimaoka (Chief Scientist of Cyber Security Group, Communication Platform Division of Intelligent Systems Laboratory, SECOM CO.,LTD) * Visiting Associate Professor of Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba since April 1, 2019. Discussion for 10 minutes (between moderator and speakers). Q&A between audience and speakers for 30 minutes. General Overview for 10 minutes (by moderator).
----------------------	--

(Ⅲ-3) 企画のアピールポイント Strong Point of Proposal

・審査関係者が限られた時間で内容を理解するためのものです。箇条書きで、簡潔に記入してください。

・日本が目指す未来社会の姿であるSociety5.0は、フィジカル空間とサイバー空間の融合により実現する。本サブセッションは、フィジカルな防災分野とサイバーレジリエンス分野の双方から取組を情報共有することによってレジリエンス社会の実現に向けた課題を共有する点で、Society5.0の在り方を検討する妥当性を有する。

・レジリエンス社会の実現という目標は、SDGsの目標9「インフラ、産業化、イノベーション」(レジリエントなインフラ構築)および目標11「持続可能な都市」(レジリエントで持続可能な都市及び人間居住の実現)に合致し、筑波会議で検討するテーマとしてふさわしいものである。

・社会的課題の解決のためには、大学内だけでなく、企業や研究機関など、機関の垣根を超えた情報共有と協働が欠かせない。本サブセッションは、防災科学技術研究所、セコム株式会社、国家災害防救科技中心(台湾)の協働を得る点で、社会的課題の解決を検討する優位性とオリジナリティがある。

*Society 5.0 which is the future society that Japan aims is achieved by fusion between physical space and cyber space. This sub session has appropriateness which examine the way of being Society 5.0 by sharing information of both fields physical disaster reduction and cyber resilience and by sharing the agenda to realize resilience society.

*The goal of realizing resilience society agrees with Target 9 of SDGs "infrastructure, industrialize, innovation" (conduct infrastructure resiliently) and Target 11 "Sustainable City" (realization of city and human residence resiliently and sustainability) is suitable as the theme of study in Tsukuba Conference.

*To solve Social Challenges, it is necessary to share information and collaborate with University and companies and research institutions with jump over a fence of each institutions. This sub session has superiority and originality by obtaining collaboration with National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience, SECOM CO., LTD., and National Science and Technology Center for Disaster Reduction (Taiwan).

IVセッション実施経費

- ・セッション実施費用は、原則として、セッション実施主体と筑波会議・TGSW推進ユニットの折半となります。ただし、推進ユニットからの支援上限額は40万円となります。
- ・各セッション実施主体による会場費の負担は、原則として発生しません。そのため、会場費を実施経費として計上する必要はありません。会場費には会議室利用料、無線LAN装置、会議机、会議椅子、受付用机椅子が含まれます。ただし、その他会場備品のレンタル料金は、会場費に含まれませんので注意してください。
- ・つくば国際会議場からマイク等の備品をレンタルする場合は、(IV-3) 会場備品費に計上してください。
- ・日英同時通訳を手配する場合は、(IV-4) 同時通訳費に、20万円を計上してください。

(IV-1) セッション関係者の招聘に係る旅費・謝金

- ・招聘者に関する情報が確定していない場合は、明細の記入を適宜省略してもかまいません。ただし、その場合は人数等、算出根拠がわかるようにしてください。
- ・謝金、日当の支給の有無等については、各セッション実施主体において判断してください。
- ・航空賃は、原則として、エコノミークラスとします。算出にあたっては、別表を参考としてください。
- ・開催期間およびその前日の4日間(10/1～4)、宿泊施設として、オークラフロンティアホテル本館、エポカル館を「筑波大学レート」(8,500円/泊、税・サ込)にて手配可能です。ただし、部屋数に限りがありますのでご注意ください。
- ・本欄の「その他」の費用には、日当、旅行雑費を含みます。

招聘者名(出発地の国名・都市名、宿泊数)、特記事項(あれば)	交通費	宿泊費	謝金	その他	金額(単位:円)
【記入例】筑波 太郎(アメリカ・アーバイン、2泊)、謝金なし					
島岡政基(三鷹市、0泊)	3,200	0	0	0	3,200
※国家災害防救科技中心のスピーカーはつくば市勤務のため旅費を計上しておりません。					0
小計(単位:円)	3,200	0	0	0	3,200

(a)

(IV-2) 人件費

- ・アルバイト学生等を雇用する場合の人件費は、こちらに計上してください。

事項	金額(単位:円)
なし	
小計(単位:円)	0

(b)

(IV-3) 会場備品費

- ・マイク等の会場備品をレンタルする場合は、こちらに計上してください。
- ・料金については、つくば国際会議場のウェブサイトを参考にしてください。
<http://www.epochal.or.jp/charge/futai_setsubi.html>

事項	金額(単位:円)
演台 1台	1,030
司会者台 1台	510
パネラー用机 2台(広い会場となった場合は4台の可能性あり)	620
パネラー用いす 4台	400
小会議室基本音響(広い会場となった場合は変更)	2,060
追加 ハンド型ワイヤレスマイク 3本	4,020
移動式データプロジェクターA 1台	12,340
移動式スクリーン(会場によっては電動スクリーン) 1面	1,030
掲示スタンド小(広い会場となった場合は大) 1台	310
水差し 4組	400
ハンガーラック 2台(広い会場となった場合は数量変更可能性あり)	2,060
小計(単位:円)	24,780

(c)

(IV-4) 同時通訳費

- ・セッションに日本語による発表等が含まれる場合は、必ず日英同時通訳を手配してください。

同時通訳を利用しますか？

利用しない

事項	金額(単位:円)
	0
小計(単位:円)	0

(d)

(IV-5) その他の経費

- ・上記(IV-1)～(IV-4)に当てはまらない費用(例:プログラム・チラシの印刷、文具等)は、こちらに計上してください。

事項	金額(単位:円)
A4チラシ デザイン・印刷(1650枚×単価26円)	42,900
A2ポスター デザイン・印刷(500枚×単価135円)	67,500
チラシ・ポスター発送費(11箇所×単価800円)	8,800
チラシ・ポスター発送費(311箇所×単価140円)	43,540
小計(単位:円)	162,740

(e)

(IV-6) 合計

(a) + (b) + (c) + (d) + (e) 合計金額(単位:円)
190,720

防災減災連携研究ハブ参加機関責任者会議（第 1 回）議事録（案）

1. 日程：2019 年 3 月 1 日（金）12 時～14 時

2. 場所：マークライト虎ノ門 6 階 防災科学技術研究所東京会議室

3. 出席者：別紙の通り

4. 議 題：

（1）防災減災連携研究ハブ設置について

1)構想、活動

2)規約、組織

（2）Nation's Synthesis の推進について

（3）日本学術会議第 24 期「学術大型研究計画」申請について

（4）防災推進国民大会 2019 の参加について

（5）その他

5. 配布資料：

資料 01-01a 防災減災連携研究ハブの構想

資料 01-01b 防災減災連携研究ハブの規約

資料 01-02a Nation's Synthesis の提案

資料 01-02b データプラットフォーム構想

資料 01-03a 24 期「学術大型研究計画」公募

資料 01-03b 24 期「学術大型研究計画」申請案

資料 01-03c 24 期「学術大型研究計画」ppt 案

資料 01-04 国民大会 2019 出展公募

6. 概要：

(1) 防災減災連携研究ハブ設置について

1) 構想、活動

資料 01-01a により、防災減災連携研究ハブの国内外での必要性をレビューし、参加機関、主要活動項目を定めた。

2) 規約、組織について

資料 01-01b 規約案について、以下の修正を行った上で、規約として定めることとした。

- ・第 2 条第 1 項に、学術の創生と人材育成をキーワードとして盛り込むこと
- ・東京大学の総合防災情報研究センター（CIDIR）には、所属（情報学環）を加えること

本日の会議は、第 1 回参加機関責任者会議であることが確認された。

タスクフォースは、責任者が各機関から人員を選出することとなった。

事務局は防災科研が担当することとなった。

(2) Nation's Synthesis の推進について

Nation's Synthesis の概念を共有し、ファシリテーターの役割を明確にした後、ファシリテーターを支援する Online Synthesis System を作っていくことを確認した。

(3) 日本学術会議第 24 期「学術大型研究計画」申請について

防災科研の長として、林理事長が代表となり、IRDR 分科会と科学技術を活かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会の推薦により申請を進めることが了承された。

マスタープラン 2017 の申請内容に、Nation's Synthesis と Online Synthesis System を加え、進捗のプロセスを明示することとなった。

さらに、Society5.0、文部科学省や国土交通省のプログラムや、SIP4D、DIAS などとの連携を記載することとなった。

その上で、資料 01-03b を各責任者で添削し、申請することとなった。

(4) 防災推進国民大会 2019 について

防災減災連携研究ハブとして、提案することが了承された。

企画、スコープ、中心機関はタスクフォースで議論することとなった。名古屋大学減災連携研究センター、川崎先生には関わっていただくこととなった。

最後に

参加機関責任者会議は、今後は年 2 回の開催を目指す。

また、今は face to face ではあるが、構成機関が日本全国にあるため、遠隔での会議も検討することとなった。

(以上)

(別紙)

出席者一覧（敬称略）：

東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS） 所長 今村 文彦

東京大学地震研究所 教授 佐竹 健治

東京大学総合防災情報研究センター（CIDIR） センター長 田中 淳

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構（EDITORIA） 機構長 池内 幸司

特任教授 川崎 昭和

名古屋大学減災連携研究センター 副センター長 野田 利弘

特任教授 田代 喬

京都大学防災研究所 地震予知研究センター 教授 橋本 学

京都大学大学院 ユネスコチェア WENDI 特定准教授 吉川 みな子

九州大学アジア防災研究センター 教授 塚原健一

防災科学技術研究所 理事長 林 春男

筑波大学レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 教授 伊藤 誠

海洋研究開発機構（JAMSTEC） 地震津波予測研究グループリーダー 堀 高峰

日本防災プラットフォーム 代表／Japan Innovation network 専務理事 西口 尚宏

常務理事兼事務局長 土井 章

常務理事 沼田 収

土木研究所

水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM） センター長 小池 俊雄

グループ長 澤野 久弥



写真：会議の様子

防災減災連携研究ハブ規約

(目的)

第1条 防災減災連携研究ハブ（以下、連携研究ハブと呼ぶ。）は、国内外の災害を巡る諸課題に対して、理学・工学・農学、社会科学・心理学、健康科学・医学に亘る各分野の防災、減災に関わる我が国の大学・研究拠点及び実務機関が、それぞれの研究、教育、実践活動の特徴を活かして、分野間連携(interdisciplinary)と科学－社会連携(trans-disciplinary)を進め、科学知に基づく災害に強い社会の構築を国内外で目指すためのネットワークを形成することを目的とする。

(活動内容)

第2条 連携研究ハブは、上記の目的を達成するために次の活動を行う。

- (1) 国難と称される巨大災害、頻発する激甚災害に対する社会のレジリエンスの強化を支援する学術の創生と人材育成及び教育体制の強化
- (2) 国際協力による科学・技術に基づく災害リスク軽減の現状・在り方・方策の統合化（シンセシス）の推進と各国の科学技術コミュニティとの協力によるナショナルプラットフォームの支援
 - ※ ナショナルプラットフォームとは、効果的で持続的な災害リスク軽減を実現するために様々な利害関係者が参加する国によって設置・運営される調整機構。
- (3) 学術基盤（情報共有システム、実験・観測・データ解析・シミュレーション機能等）の共同構築・利活用
- (4) 上記（1）～（3）を推進するための協議の場（フォーラム、ワークショップ等）の開催

(構成)

第3条 連携研究ハブの構成は、以下の通りとする。

- (1) 連携研究ハブは、防災、減災に関わる我が国の大学・研究拠点及び実務機関のメンバーで構成し（別紙参照）、参加機関責任者会議、タスクフォース及び事務局を置く。
- (2) 参加機関責任者会議は、各参加機関の責任者から構成し、意思決定を行う。
- (3) タスクフォースは、各参加機関責任者がそれぞれ1～2名を指名したメンバーから構成し、企画、運営を行う。
- (4) 事務局は国立研究開発法人 防災科学技術研究所が担当する。

(参加機関責任者会議)

第4条 参加機関責任者会議は次の事項を行う。

- (1) 連携研究ハブの基本方針の策定、進捗状況の管理、活動項目の決定等に関する審議
- (2) 事業計画の作成および執行
- (3) その他連携研究ハブの推進に必要な事項

(タスクフォース)

第5条 タスクフォースは次の事項を行う。

- (1) 連携研究ハブの基本方針案、進捗状況報告、活動項目案等の策定

(2) 事業計画案の作成

(3) その他連携研究ハブの推進に必要な事項

(庶務)

第6条 連携研究ハブの庶務は、事務局で行うものとする。

(雑則)

第7条 この規約に定めるもののほか、連携研究ハブの運営に関し必要な事項については、参加機関責任者会議（又はタスクフォース）が定めるものとする。

附則

この運営要領は、2019年3月1日から施行する。

(別紙：参加機関リスト)

東北大学災害科学国際研究所 (IRIDeS)

東京大学地震研究所 (ERI)

東京大学情報学環総合防災情報研究センター (CIDIR)

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構 (EDITORIA)

名古屋大学減災連携研究センター (DMRC)

京都大学防災研究所 (DPRI)

京都大学水・エネルギー・災害教育研究ユネスコチェアユニット (WENDI)

九州大学大学院 工学研究院 附属 アジア防災研究センター

国立研究開発法人防災科学技術研究所 (NIED)

国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 数理科学・先端技術研究分野

国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

日本防災プラットフォーム (JBP)

Risk and Resilience Seminar “Creating Safety and Security”

~ The aim of Resilience Research and Education Promotion Consortium ~
Host: Resilience Research and Education Promotion Consortium

March 26, 2019 15:30-17:00

Venue: 15th floor of Union Development Building

Address: No.200, Sec. 3, Beisin Rd., Xindian District, New Taipei City 23143, Taiwan

Tuition free

Aim

As a background, natural disasters happened in recent years, to create safe and secure lands, communities, and economic societies with “Strength” and “Flexibility”, that is to realize resilience society, is a common issue shared by Taiwan and Japan.

In this seminar, Consortium which National Science and Technology Center for Disaster Reduction has participated would transmit our activities for realization of the resilience society.



Yasunori Endo

15:30~15:35 Opening Address

Dar-Bin Shieh
(Deputy Minister, Ministry of Science and Technology, Taiwan)

15:35~15:45 Graduate School Education which Promoted by the Consortium
-New Master's/Doctoral Program by Collaborative Graduate School Program-
Yasunori Endo
(Professor of Faculty of Engineering, Information and Systems,
Chair of Master's/Doctoral Program in Risk Engineering, Japan)



Haruo Hayashi

15:45~16:10 Improvement of Resilience for Disaster Risk Reduction

Haruo Hayashi
(President of National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience,
Japan)



Yasufumi Amari

16:10~16:35 The Essence of Security

Yasufumi Amari
(SECOM Co.,Ltd, Intelligent Systems Laboratory,
Group leader of Risk Management Group, Japan)

16:35~16:55 Questions and Answers

16:55~17:00 Closing Address

Hongey Chen
(Director, National Science and Technology Center for Disaster Reduction, Taiwan)

Inquiry

Resilience Research and Education Promotion Office

Website : <https://r2ec.jp/>

Email : r2ec@risk.tsukuba.ac.jp

Tel : +81-29-853-4975

Documents
Download



National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR)

Tel : +886-2-81958674

33



行政法人

國家災害防救科技中心
National Science and Technology Center
for Disaster Reduction

National Taiwan University - Resilience Research and Education Promotion
Consortium Meeting Attendees List 2019.3.22 (without honorifics)

	Name	Job Title
1	Shiuh-Tzung Liu	Professor / Dean Chemistry, College of Science / College of Science National Taiwan University
2	Yih-Min Wu	Professor / Chairman Department of Geosciences / Department of Geosciences National Taiwan University
3	Yu-Ning Ge	Professor / President Department of Civil Engineering / General Affairs National Taiwan University
4	Hung-Chi Kuo	Professor / Director Department of Atmospheric Sciences / Center for Weather Climate and Disaster Research National Taiwan University
5	Haruo Hayashi 林 春男	President National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience 防災科学技術研究所 理事長
6	Akiteru Maeyama 前山 明輝	Official Collaborative Partnerships Division, Strategic Planning Department National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience 防災科学技術研究所 企画部 社会連携課 係員
7	Yasufumi Amari 甘利 康文	Group Leader Risk Management Group, Intelligent Systems Laboratory SECOM Co., Ltd. セコム IS 研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー
8	Yoshihiko Hiraoka 平岡 良彦	Research Engineer, Specialist Intelligent Systems Laboratory SECOM Co., Ltd. セコム IS 研究所 主務研究員
9	Sho Sanami 佐波 晶	Manager Research & Development Center Dai Nippon Printing Co.,Ltd. 大日本印刷 研究開発センター 課長
10	Yoshitaka Maeda 前田 賀隆	Researcher Research & Development Center Dai Nippon Printing Co.,Ltd. 大日本印刷 研究開発センター 研究員
11	Kumiko Kemmoku 見目 久美子	Director General Foundation DRI-Japan DRI ジャパン 理事
12	Gengaku Mashiro 真城 源学	Director General Foundation DRI-Japan DRI ジャパン 理事
13	Tokuaki Nakajima 中島 徳顕	Director Air Traffic Management Department Electronic Navigation Research Institute, National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology 電子航法研究所 航空交通管理領域 領域長
14	Yuji Ogata 緒方 雄二	Director Research Institute of Science for Safety and Sustainability National Institute of Advanced Industrial Science and Technology 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究部門長
15	Junichi Takeshita 竹下 潤一	Planning Officer Research Planning Office, Research Promotion Division of Energy and Environment National Institute of Advanced Industrial Science and Technology 産業技術総合研究所 エネルギー・環境研究戦略部 研究企画室 企画主幹
16	Seiji Iino 飯野 誠司	Laboratory Manager National Resilience Project 3M Japan Limited スリーエム ジャパン 国土強靱化プロジェクト本部 統轄技術部長

17	Liu Qiao	Executive Director & Chief Technical Officer 3M Japan Limited スリーエム ジャパン 常務取締役
18	Jack Chen	Country Technical Leader Technical Department 3M Taiwan Ltd.
19	Wei-Sen Li	Secretary General National Science and Technology Center for Disaster Reduction
20	Ke-Hui(Kiri) Chen	Assistant Researcher International Collaboration National Science and Technology Center for Disaster Reduction
21	Chi-Ling(Eva) Chang	Assistant Researcher International Collaboration National Science and Technology Center for Disaster Reduction
22	Sheu-Yien Liu	Assistant Researcher Earthquake and Man-made Disasters Division National Science and Technology Center for Disaster Reduction
23	Yasunori Endo 遠藤 靖典	Professor / Chair Faculty of Engineering, Information and Systems / Master's/Doctoral Program in Risk Engineering University of Tsukuba 筑波大学 システム情報系 教授 リスク工学専攻長
24	Tsutomu Suzuki 鈴木 勉	Professor Faculty of Engineering, Information and Systems University of Tsukuba 筑波大学 システム情報系 教授
25	Keiichi Okajima 岡島 敬一	Professor Faculty of Engineering, Information and Systems University of Tsukuba 筑波大学 システム情報系 教授
26	Michitaka Umemoto 梅本 通孝	Associate Professor Faculty of Engineering, Information and Systems University of Tsukuba 筑波大学 システム情報系 准教授
27	Akitoshi Takayasu 高安 亮紀	Assistant Professor Faculty of Engineering, Information and Systems University of Tsukuba 筑波大学 システム情報系 助教
28	Satoru Ishihama 石濱 悟	Head Academic Service Office for the Systems and Information Engineering Area University of Tsukuba 筑波大学 システム情報エリア支援室 支援室長
29	Ayako Wei 衛 絢子	Chief Global Commons University of Tsukuba 筑波大学 グローバル・コモンズ機構 主任
30	Tomomi Suzumura 鈴木 朋美	Official Academic Service Office for the Systems and Information Engineering Area University of Tsukuba 筑波大学 システム情報エリア支援室 一般職員
31	Hiroyuki Sakuma 佐久間 裕之	Official Academic Service Office for the Systems and Information Engineering Area University of Tsukuba 筑波大学 システム情報エリア支援室 一般職員
32	Yu Matsubara 松原 悠	Project Manager Academic Service Office for the Systems and Information Engineering Area University of Tsukuba 筑波大学 システム情報エリア支援室 プロジェクトマネージャー
33	Chia-Yao Lin 林 佳瑤	Coordinator Taiwan Office University of Tsukuba 筑波大学 台湾オフィス 現地スタッフ